

「国際統計」で世界を知ろう

政策統括官（統計基準担当）付
国際統計管理官付
統計専門職

田中 留美

日本は世界で第何位？

日本は世界第2位の経済大国、世界第1位の長寿国…などなど、小学校の社会科の授業から始まり、毎日のニュースに至るまでよく耳にしてきた統計情報。これによって、私たちの世界観がある程度形作られると言っても過言ではないでしょう。

これらは、国連等の国際機関が、各国の統計部局より統計データの提供を受け、取りまとめた上、公表しているものです。その際、各国の統計データを国際比較可能なものとするため、国際機関では、統計データの定義など国際的な基準を設けるとともに、後進国に対しては技術支援等を行い、さらには、基準そのもののレベルアップも図ります。これが私が従事する「国際統計」という業務の絵姿です。

日本と世界の狭間で

私は、国際機関から日々流れてくる意見照会や作業依頼に対し、各府省の担当者と連携を取りつつ我が国の方針を取りまとめる、いわば日本の統計行政の国際窓口であり、「調整役」の立場にあります。そしてこの積み重ねは、国連統計委員会や OECD 統計委員会等の国際場裏における我が国の立場表明へとつながっていきます。

しかし、統計分野一つ取ってみても、統計技術、優先度、人的資源など各府省間で相違があり、国内調整は一筋縄では行きません。ましてや、諸外国との合意形成は根気を要する仕事です。調査研究に熱心な欧州諸国、IT技術活用に意欲的なアジア諸国、まずは援助が必要な後進国など世界各国の思惑が渦巻く中で、統計先進国として日本は何ができるのか、模索する毎日です。

日本を知りたい人々へ届くように

このような「調整役」としては、あらゆる統計について深い造詣が必要です。国民経済計算、農業統計、国際貿易統計から始まり、最近、ブータンの「国民総幸福量」で脚光を浴びた「幸福量」の測定まで、網羅すべき範囲は無限であり毎日が勉強です。しかし、このような努力は、いつの日か、世界のどこかでインターネット画面を目の前にして、日本の統計データにアクセスしようとしているユーザーに届く情報が少しでも増えることにつながると信じています。そこには、正解や決められた手法はありません。統計を通じ、世界を舞台として無地のキャンバス地に自分が信じる行政の在り方を描いていく、そんな仕事をしてみたい方、ぜひ総務省の門を叩いてみてください。

PROFILE

平成9年4月	総務庁採用 関東管区行政監察局 総務庁
平成10年4月	神奈川県行政監察事務所 行政相談課
平成13年4月	総務省行政評価局 行政相談課
平成17年9月	短期在外研究員 (アメリカ合衆国)
平成18年4月	総務省行政評価局 評価監視調査官
平成20年7月	総務省行政管理局 企画調整課 行政手続・制度調査室 調査研究係長
平成21年7月	総務省 行政管理局主査
平成23年7月	現職

とある一週間

- 月曜日** 国連統計委員会出席のため11日間のN.Y出張控え、政策統括官と最終打ち合わせ。
- 火曜日** 議場での発言の英訳について、各省と最終調整。微妙な言い回しにまで気を遣います。
- 水曜日** 明日からの長期不在に備え、同僚へ入念に仕事の引継。
- 木曜日** N.Yへ向けて空路13時間の旅。昼夜逆転する現地到着後、すぐに仕事に臨めるよう、機内では睡眠確保が第一。
- 金曜日** 朝から夕方まで、国連統計部主催のセミナー。この日のテーマは「世界の人口70億人へ」。
- 土・日曜日** アジア地域の非公式会合へ出席。統計研修事業へ提出する資金問題など喫緊の課題について議論。



N.Y国連本部にて、日本政府代表団集合!